



放水体験をする園児

10月15日 【釜石消防署】

狙い定めて放水 ふれあいフェスで防災意識向上

釜石市幼年消防クラブ消防ふれあいフェスティバルが開催され、市内3保育施設の園児たち約40人が、消防車の乗車や放水などの体験を通して防火への意識を高めました。園児たちは、署員のサポートを受けながら火に見立てた的をホースで狙う放水体験に挑戦しました。上中島こども園の堀川陽雅さんは「火を消すところが楽しかった。火は怖いから気を付けるね」と元気に話しました。



(中) パトラー・ジェニファーさん、(右) 坂江裕美代表理事

10月21日 【市長室】

ミネルバ大学、(一社)ミネルバジャパン 包括連携協定を締結

市は、Minerva University、(一社)Minerva Japanと、それぞれが持つ資源や特徴を生かし、相互の人的・知的資源の交流により、さまざまな地域課題の解決や地域社会の発展、人材育成、学術の振興に寄与するため、包括連携協定を締結しました。本協定の締結により、東日本大震災の教訓、復興まちづくりの取り組みを世界に発信するとともに、学生の知見を生かした連携を推進していきます。



仙人大橋手前の上り坂を駆け上がる峠コースの参加者

10月26日 【旧釜石鉱山事務所周辺】

色づく紅葉 ランナー後押し キツさ楽しみ、坂道ひた走る

第16回かまいし仙人峠マラソン大会が開催され、アップダウンが多い2つの難コースに250人が挑みました。あいにくの雨模様となりましたが、色づいた紅葉を背景にランナーたちは健脚を競いました。参加者の上村健さんは「苦しいけど、走るのに夢中になる。紅葉もきれいだった。地元の大会だから参加し続け盛り上げたい」と力を込めました。



大玉ドッジボールを楽しむ児童

10月28日 【釜石鶴住居復興スタジアム】

また一緒に遊びたいね！ 園児たちが元気いっぱい交流

こども園合同「ふれあい遊び」が開催され、市内5保育施設の園児たち約60人は、かけっこや大玉ドッジボールなどで元気いっぱい体を動かしました。来年から同じ小学校になる可能性がある他園のお友達とも交流を深め、笑顔があふれる時間となりました。甲東こども園の福士悠大さんは「みんなと楽しく遊べてすごく楽しかった」とはにかみました。

10月4日-5日 【釜石市民ホールTETTO】

郷土芸能15団体 釜石に集結！ 伝統の演舞堪能する2日間

今年で11回目を迎える三陸国際芸術祭2025が開催されました。当市が会場となるのは初めてで、地元からは市指定無形民俗文化財の3団体が出演しました。会場には市内外から大勢の人たちが訪れ、来場者は見ることや学ぶこと、体験を通して郷土芸能の魅力を楽しみました。陸前高田市の及川幹雄さんは「釜石の虎舞を初めて見た時は衝撃を受けた。大好きです」と笑顔で話しました。



青森県階上町の「田代盆踊り」

10月10日 【箱崎集会所】

虎舞を国際交流のツールに 郷土芸能伝承を考える釜石高校生

郷土芸能の担い手不足解消を研究する釜石高校2年生のゼミグループを中心とした有志11人が「虎舞」を通じた外国人観光客との交流会に参加しました。生徒らは自己紹介や踊りの演目説明を英語で行い、虎舞の代表的演目「矢車」「跳ね虎」「笹ばみ」を披露しました。体験したリー・ベリンダさんは「とても感動的。パフォーマンスの素晴らしさを実感した」と貴重な体験を喜びました。



虎頭や幕の動かし方を教わる参加者

10月11日 【大平中学校】

「お互いさま」で助け合うまちに 大平中3年生 学びの集大成

大平中学校の文化祭は、3年生18人が認知症をテーマにした劇を披露しました。生徒たちは、高齢化が進む地域の一員として「みんなが笑顔で暮らせるまちを」と呼びかけ「小さくてもいい、できることをする。あなたは?」と問いかけました。「みんな違っていい。困った時はお互いさま。できることをして支え合おう」という気持ちが地域に広がることを期待し、温かな拍手の中で舞台の幕は閉じました。



福祉学習の集大成として認知症劇を披露した大平中3年生

10月11日 【釜石鶴住居復興スタジアム】

4世代が元気に参加 秋深まるうのスタ周辺で完走目指す

釜石市の「スポーツの秋」を象徴する「釜石健康マラソン大会」が開催され、市内外の幼児から高齢者までの236人が参加しました。1歳から81歳の幅広い世代がゼッケンを付け、メイングラウンドのスタートラインに立ち、心地良い潮風を受けながら力走しました。ゴール地点では家族や仲間が出迎え、完走の喜びを分かち合う姿が見られました。



小学校低・中学年対象の2キロの部